

# 花巻ファーマー

## 花巻ブルーの魅力地域の人たちに伝えたい



刈澤園芸  
刈澤 拓也 さん  
(石鳥谷町八重畑 33歳)

平成28年9月に就農した鉢花の生産者・刈澤拓也さんは、「花本来の良さが出るような栽培」を心掛け、日々情熱を注いでいます。

刈澤さんが栽培しているのは▼クレマチス(鉢花)▼リンドウ(鉢花)▼カンパニュラ(鉢花・切り花)の「花巻ブルー」が中心です。今年からリンドウ(花巻銀河ブルー)とカンパニュラの出荷を開始。花巻ブルーの産地づくりに貢献するため、年間を通して出荷できる体制を目指しています。

「花巻ブルーは、花や色合いも異なり、年間を通じていろんな楽しみ方ができる。素直にいいなと思いました」と刈澤さん。生産者たちが一丸となって栽培に取り組んでいる花巻ブルーの魅力を地元の人たちにも知ってもらいたいと話します。



刈澤さんのクレマチス。贈答用として出荷しています

刈澤さんは以前、花のインターネット販売を行う会社に勤務。消費者の好みなどを直接聞くことができた経験は、現在の栽培に大きな力となっているそうです。それでも「父や共に働いている先輩たちから学ぶことがたくさんあります。さらに栽培技術を磨いていきたい」と花農家の2代目として意欲を見せています。

栽培した鉢花は道の駅石鳥谷「農産物直売所杜の蔵」などで販売しています。

### 広げよう活動の輪

### 市民活動団体紹介

## NPO法人花巻猟友会

鳥獣対策を通じて地域貢献

NPO法人「花巻猟友会」は、平成26年度に設立。狩猟知識の普及や鳥獣対策などを通じた地域貢献を目的に活動を展開しています。

同団体の会員は、市が狩猟資格を持つ個人に対し委嘱する花巻市鳥獣被害対策実施隊として活動に参加。狩猟技術の習得・向上を図りながら、農作物に被害を与えるカラスやシカなどの有害鳥獣駆除を実施しています。また、絶滅が懸念されている鳥獣の個体数調査や白鳥の飛来数調査など、鳥獣資源の確保に向けた取り組みを実施。さらに、市街地での目撃件数が増加しているクマから子どもたちを守るため、学校にクマよけのチロリアンカウベルを寄贈。地域の安全・安心な生活環境づくりに貢献しています。



NPO法人花巻猟友会の皆さん。現在、会員52人で活動しています

【問い合わせ】  
NPO法人 花巻猟友会  
理事長 和智 香さん  
(☎26-4442)

## 市民生活コーナー

身に覚えのないメールや、はがき、SMSに注意！

### ■どんな相談があるの？

○「身に覚えのない料金を請求する電子メールやショートメッセージサービス(SMS)が届いた」「未納金を支払わないと訴訟する」というはがきが届いた」「未納金があると電話がかかってきた」などの相談が、本市を含め全国的に寄せられています。

### ■注意することは？

○架空請求のはがきやSMSなどは、消費者の情報に完全に特定した上で送られていないわけではありませぬ。お金を要求されたり、電話番号などを知ら

れたら、大手通販サイトなど、実在の事業所をかたつて誤認させるものや、法的措置を取ると言っても不安にさせるものなど、さまざまな方法でお金を払わせようとしています

### ○支払の指示として多いのは▼振り込み▼プリペイドカードを購入させ、カード番号を聞き出す▼コンビニエンスストアの端末で支払いの操作をさせる▼が挙げられます

○新館市民生活総合相談センター(☎24211111内線259)へ

COLUMN:Health

## 健康コラム

### あなたの大腸“だいちょう”ぶ？

症状が出にくく検診を受けなければ気付くのが難しい大腸がん。検査は難しいのでしょうか。

- 検査はとっても簡単  
便を採って提出するだけで検査できます。



◀申し込むと、受診票と採便キット(2日分)が届きます

【検診の流れ】①自宅で2日間便を採る②採便キットを検診実施日に提出③1カ月後に結果が届く

### ●大腸がんは急増中

男性はおよそ10人に1人、女性はおよそ13人に1人の割合で診断されている大腸がん。日本人のがんによる死亡数の2位です。しかし大腸がんは早い時期に見つけて治療することで、治る可能性が高いといわれています。

### ●始めませんか？ 大腸がん検診

40歳以上の人ほどなたでも受けることができます(1回500円)。12月まで実施していますので、下記へお申し込みください。

【問い合わせ・大腸がん検診の申し込み】  
健康づくり課(☎23-3121)



## 地域おこし協力隊

若い農家が誕生しました。その名を鈴木寛太と申します。

5月某日、私・鈴木寛太は大迫町でブドウ農家として新規就農しました。

なぜ、このタイミングで就農したのかというと、現在、大迫町はブドウ農家に新規就農する人が増えていて、私はその人たちをサポートしたいと思っていたからです。さまざまなサポートの方法がある中で、自分も就農する道を選びました。新規就農者と一緒になって悩み、おいしいブドウを作る喜びを共有するのが、私なりのサポートの仕方です。

さらに、これまで培ってきたベテラン農家さ

んとのつながりを生かし、新規就農者とベテラン農家さんとの間のパイプ役になればと考えています。

ブドウ作りに挑戦したい人のために、始めやすい環境づくりをすることが、私がここにいる意味だと思っています。

ちなみに、育てるブドウは「大迫と言ったらこれ！」というアメリカ系品種「キャンベル・アーリー」。生食が主流ですが、ワインにも使われています。

私の協力隊としての任期は7月末まで。以降はこの約10%のブドウ畑が新たな人生のステージです。



左:鈴木隊員 右:ブドウ畑